

落ち着いて授業に参加できるようになるための自立活動の取組

—外部専門家の助言を生かした中学部生徒への指導—

長崎県立鶴南特別支援学校

教諭 田中 達也

濱田 美香

1. 本校の自立活動について

本校は、長崎市南部の自然豊かな場所に位置する、知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校で、小学部から高等部まで156名の児童生徒が在籍している。

本校では、各部、週時数は異なるが自立活動の時間における指導を設定している。

	小学部		中学部	高等部
週時数	3コマ		1コマ	0.5コマ
指導形態	1・2年	学級・学年自立	学年ごとに課題別に分かれて学習	
	3～6年	1コマ：学級自立 2コマ：グループ自立(※)		

(※) 小学部 3年生以上は、学年を超えて縦割りで実態別に学習を行っている。

2. 本校の外部専門家活用について

本校では、県の発達障害児等能力開発・教育推進事業（外部専門家活用）として長崎大学教育学部教授で臨床心理士である内野成美先生を招き、各部1～2名ずつ、行動面、情緒面、心理面等に課題のある児童生徒について、児童生徒の授業や自立活動、学校生活の様子等を実際に参観してもらい、実態把握や指導目標、指導方法の改善や、心理面での配慮などについて助言をいただいている。教職員は、年3回（7・9・11月）、助言を得て指導を改善し、夏季研修会の受講や指導事例報告会を行うことで、校内の指導力と専門性の向上を図っている。

本発表では、昨年度、落ち着いて授業に参加するのが難しい中学部生徒に対して行った指導をまとめた。

3. 外部専門家の助言を生かして、指導を改善するための「パワーアップシート」

本校では外部専門家とのやりとりの流れに沿って、以下のパワーアップシートを記入、活用している。特に、③で助言を教育的な視点で再考し整理することや⑤でこれまでのやりとりを通して身に付いたり、高まったりしたと感じる視点や考え方、働きかけについて記載することで、自立活動の指導における専門性の向上を図っている。

児童生徒名		担当者名		担当専門家名	
-------	--	------	--	--------	--

障害名及び疾病名	
自立活動の目標	

指導助言日	課題・専門家に助言してほしいこと	外部専門家からの助言	助言を得て整理したこと・修正した方法や手立て等	児童生徒の変容	教師の変容
1回目 月日()	①	➡ ②	➡ ③	➡ ④	➡ ⑤
2回目 月日()					
3回目 月日()					

4. 外部専門家の助言を生かした中学部生徒への指導

○生徒について

- ・ 中学部 2年生（R4年度は、本校中学部3年生）
- ・ 本校小学部から中学部に入学
- ・ 施設に入っており、平日は施設で過ごしているが、休日は自宅に帰り、家族と過ごしている。

【障害名及び疾患名】

- ・ 自閉スペクトラム症、知的障害、精神運動発達遅滞

【苦手なこと】

- ・ 集団が苦手で、みんなと一緒に行動することや教室の中に入ることが苦手である。
- ・ 授業への参加を促すと不安定になり、大声を出したり、教師や近くの友達に他害をしたりすることがある。
- ・ 食事後、嫌なことがあると食べ物を胃から口に戻したり、吐き出したりする。

【良い面】

- ・ 内言語が多く、簡単な内容の指示が理解できる。
- ・ タブレットPCを扱ったり、バスを見たり、食事をしたりしているときは落ち着いて過ごすことができる。
- ・ 人との関わりを好み、自分から挨拶をする。

○個別の教育支援計画

【保護者の願い】

- ・ 友達などに他害することなく、落ち着いて活動してほしい。
- ・ 身の回りのことでできることを増やしてほしい。
- ・ 興味を広げてほしい。

【支援目標】

- ・ 情緒が安定し、指示の理解や活動の幅が広がるように支援する。
- ・ 日常生活動作をできるだけ一人で言うことができるように支援する。

○自立活動の目標

- ・ 見通しをもつことで、落ち着いて授業に参加することができる。
- ・ 活動に取り組む際には、教師との約束やルールを守って取り組むことができる。

○自立活動（時間の指導）の目標

- ・ ルールや順番を守ってゲームに取り組む。
- ・ みんなと仲良くしながら、楽しくゲームに取り組む。

●外部専門家への相談（1回目）R3年7月

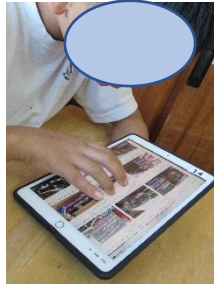
課題・専門家に助言してほしいこと

- ・集団の中に入ることや、教室で授業を受けることが難しく、気持ちが不安定になると他害が見られる。日程を教師と一緒に確認したり、回数や時間を示したりしながら活動に取り組んでいるが、不安定になることが多いため、他にも有効な支援が知りたい。

〔相談時の本児の状況〕

- ・教室の中に入ること嫌がり、大声を出したり、床に座り込んだりする。
- ・無理に教室の中に入れ、着席させても、すぐに立ち上がり、動き回ったり、床に寝たりする。また、大声を出すため、授業の進行や他の生徒への影響がある。
- ・何度も授業への参加を促していると、教師や近くの友達に他害を加えようとする。

〔助言前の対応〕



- ・落ち着かせるために、タブレットPCを渡し、自由に扱わせていた。

〔外部専門家からの助言〕



- ・タイマーを使って視覚的に分かりやすくする支援はよい。
- ・タイマーを使う際には、あと〇分などと予告してあげることが大事。時間は10分ずつの区切りから始めるとよい。



- ・見通しをもちやすくするため、活動が終わったら取り外せるようにする支援は効果的なので様々な場面で活用するとよい。

〔生徒の変容〕

- ・初めは10分待てずに大声を出したり、離席しようとしたりし、教師から着席を促されると他害を加えようとしていたが、徐々に活動に見通しをもつことができるようになり、50分の授業に落ち着いて取り組めるようになった。

●外部専門家への相談（2回目）R3年9月

課題・専門家に助言してほしいこと

- ・タブレットPCは、教科の授業で扱わせることが多く、体育や職業などの授業では扱わせていない。今後の生活も考えて、タブレットPCを扱わない時間も必要だと感じるが、現在のような支援でいいか、精神安定を優先させたほうがいいか、タブレットPCの扱い方についてよい方法があれば知りたい。

〔相談時の本児の状況〕

- ・体育、職業などの苦手意識が高い学習では、他の学習に比べ、より不安定になることが多く、参加が難しい。
- ・床や地面に寝転ぶことが多い。
- ・体操服や作業服を脱ごうとする。

〔助言前の対応〕



- ・依存的にならないようにタブレットPCは扱わせなかった。
- ・時間や回数を示しても、参加が難しいため、無理に参加を促さず、見守っていた。

〔外部専門家からの助言〕

- ・タブレットPCを扱いながらの取組は、本人にマッチしている。できることを大事にしてあげる。
- ・今の段階では、授業の参加を優先させたほうがいい。タブレットPCがあることで授業に参加できるのであれば、うまく活用し、参加できているという経験を積ませていくことが大事。



- ・参加できたことやみんなと同じ場にいられたことを優先し、経験をたくさん積ませていくことで、自信をつけ、最終的に時間の变化(10分→20分)(タブレットPCを使う頻度を減らす)などに繋げていく。

〔生徒の変容〕

- ・体育では、関連の動画を観ながらルールややり方を教師と一緒に確認することができた。試合では、チームの一員として自分の順番が来たらボールを投げることができた。
- ・職業で紙ちぎりの作業を行った。作業とタブレットPCを扱う時間を交互に行ったり、休憩を入れたりすることで、1時間30分程度の作業には、みんなと同じ教室に入り、参加できるようになった。
- ・本人の様子を見ながら、学習に参加する時間を増やしたり、本を見る時間や散歩に行く時間などを入れたりした。11月には、タブレットPCにあまりこだわらなくなり、12月には、全く扱わなくなった。授業にも一人で着席し、最後まで参加できるようになった。

●外部専門家への相談（3回目）R3年11月

課題・専門家に助言してほしいこと

- ・気持ちを伝えるために写真やイラストを準備しているが、ほとんど活用できていない。有効なカードの作り方や提示の仕方が知りたい。

〔相談時の本児の状況〕

- ・嫌なときには、大声で叫んだり、嘔吐したりする。
- ・自分の要求が通らないと近くの友達や教師に対し、他害を加えようとする。

〔助言前の対応〕

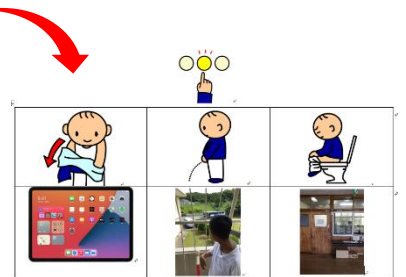
- ・内言語が多く、教師の言葉が理解できたり、本人の要求は身振りで伝えたりすることができたため、教師が指示を出す際には、言葉や身振りで伝えることが多かった。



机の横にカードを掛けておき、必要なときに提示する。



見やすさと活用のしやすさを優先し、机の上にカードを張り付けて活用した。



〔外部専門家からの助言〕

- ・カードなどを使い、気持ちを伝える手段を与えてあげるとよい。
- ・相手に丁寧にお願いするなどの適切な行動を学習させる必要がある。



- ・写真の下に「トイレに行きたいです」など本人が分かる言葉を一緒に入れてあげることによって、言葉と一緒に覚えることができる。また、カードの空いている場所に〇×を書くことで、不適切な行為をしたときなどに〇×を示してあげることができる。



- ・表情のカードを作り、机の上に貼って選ぶようにするといい。自分を見られているサインになり、本人の安心につながる。安心できるようになれば、不適切な行為の減少につながっていく。

〔生徒の変容〕

- ・生徒が気持ちを伝える際にカードを指さして伝えることが増えた。
- ・表情カードについても、教師が気持ちを尋ねたときに指を差して答えることができた。しかし、同じ表情のイラストを差すことが多く、自分の気持ちと表情のイラストが一致していないことが多かった。
- ・不適切な行為があったときには、教師と一緒に〇×カードを使って自分の行為を確認した。教師がカードの×を指で差すと、生徒自身が指を交差させ、×を示すなど不適切な行為であることを確認することができた。
- ・カードの活用については定着するまでには至らなかった。〇や×で不適切な行為であることを確認できても、行為自体の減少には繋がらなかった。

●今後の課題

〔家庭・施設・医療との連携〕

施設

- ・園での生活では、不安定になることが多く、他の子どもに対し、他害をすることがある。
- ・子どもたちの安全、安心が一番大事であり、服薬することで情緒を安定させる必要がある。

家庭

- ・服薬している様子を見ているとかわいそう。体にも負担がかかっている。あまり薬に頼りたくない。
- ・母親が本人の要求を抑止できなくなっている。

医療

- ・1日に約40錠の服薬。
- ・8月に入院。薬の調整を行い、1日約10錠に減った。その後も本人の様子をみながら薬の調整を行っているが、徐々に薬の量は増えてきている。

〔外部専門家からの助言〕

- ・支援の様子を撮影し、家庭や施設でも同じように支援してもらおう。
- ・教師の言葉や動作などを伝え、できるだけ学校と同じような支援を行えるようにする。

●成果と課題

成果

〔生徒の変容〕

- ・タブレットPCを用いることで、50分の授業に落ち着いて参加できることが増えた。授業への参加を拒否することがほとんどなくなり、自分から教室へ入ることができたり、みんなの前で問題を答えたりすることもできた。
- ・要求や気持ちを伝える際にカードを指さして伝えることが増え、教師と一緒に要求や気持ちを確認することができた。不適切な行為があったときは、教師と一緒にO×カードを使って自分の行為を確認したり、生徒自身が指を交差させ、×を示したりしながら確認することができた。

〔教師の変容〕

- ・気持ちを落ち着かせるためにタブレットPCを扱わせることは、本人にとって悪影響なものであると感じていたが、タブレットPCを用いることで、分かることやできることが増えるという考え方をもつことで、一つのツールとして活用できるようになった。
- ・中学部段階という年齢に応じた指導だけでなく、本人の発達段階に応じた指導を考えて取り組むようになった。
- ・不適切な行為は受け流し、必要以上に対応しない。視覚的支援を活用し、気持ちを伝える手段を与えたり、丁寧をお願いするなどの適切な行動を学習させたりしながら取り組むようになった。

課題

〔支援について〕

- ・視覚的支援については、長期的に継続して活用し、定着を図る必要がある。
- ・精神の安定を図り、衝動性を抑えるために服薬しているが、副作用の影響で眠気、ふらつきが強くなり、活動に取り組めないことがあった。

〔連携について〕

- ・家庭だけでなく、施設や医療との関わりが大きい。こまめな情報交換や懇談等で支援や手立てについての共通理解を図りながら取り組んでいるが、学校、家庭、施設で同じような支援を行うことは難しい。